

Ⅱ 委託研究課題概要

＜研究概要様式＞

【2020年度応募 連携研究スキームによる研究】

課題番号(e-Rad 課題 ID) : 20353867

研 究 テ ー マ : ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「国産農水産物の国内外の需要動向を踏まえた供給体制に関する研究」

委 託 研 究 課 題 名 : 「国内外の諸制度を踏まえた国産水産物の供給体制の構築に関する研究」

1 研究実施期間(西暦): 2020年度～2022年度(3年間)

2 予算規模: 11, 000千円(2021年度)

3 中核機関・役職・研究総括者

国立大学法人 東京海洋大学学術研究院海洋政策文化学部門 教授 婁 小波

4 研究の目的・達成目標

本研究は、ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障に寄与するため、国内外の諸制度を踏まえ、中長期的な視点から国内水産業の成長産業化を見据えた国産水産物の適切なサプライチェーン(生産・加工・流通等の供給体制)の構築を目指すことを目的とする。具体的には、漁業管理体制の基盤整備、加工流通技術革新の促進、輸出振興戦略の強化にもとづき、水産業の成長産業化を見据えた国内水産物の安定した供給体制を構築するための方策を提言する。

5 研究の内容および実施体制

① 国内生産体制の強化を目指す漁業管理体制の基盤整備に関する分析

新漁業法下において導入される新漁業管理制度がグローバルスタンダード化を目指すための他国の諸制度とのハーモナイゼーションの可能性に関する調査・分析を行う。また、機械学習を活用した新たな資源管理技術及び水産業に適した生産性評価の枠組みの開発に資する研究を行う。(東京海洋大学学術研究院海洋政策文化学部門、東京大学大学院新領域創成科学研究科)

② 円滑な供給を目指す国内加工流通システムのイノベーションと実用化に関する分析

付加価値の向上やコスト削減に寄与し、国内供給体制の安定化に寄与すると考えられる近年の水産加工技術の開発動向や実用化における制約条件に関する調査・分析を行う。また、新たな水産物流通システムの形成について、従前の水産物取引や農産物との比較、物流、商流、情報流の変化、トレーサビリティの普及等の視点から調査・分析し、スマート水産業の実現に向けた今後の展望を明らかにする。(東京海洋大学学術研究院海洋政策文化学部門、東北大学大学院農学研究科)

③ 今後の成長化が見込まれる主要品目の輸出競争力強化に向けた市場分析

成長産業化を目指す品目について、近年の輸出入動向、輸出の増減に伴う国内産地の構造変化、主要輸出先国の貿易制度の変化や市場消費動向に関する調査・分析を行う。また、海外において戦略的に輸出される品目の生産動向等の情報を収集し、国内発エコラベルを活かした輸出振興戦略の策定にも資する情報を提示する。(東京海洋大学学術研究院海洋政策文化学部門、(株)水土舎、インテムコンサルティング(株))

6 政策研究との連携の意義、期待される波及効果

政策研究において実施される国産水産物の輸出のあり方に関する研究成果と、本研究で実施される成長産業化を見据えた国産水産物の需要動向を踏まえた安定供給のあり方に関する研究成果との連携がなされることにより、輸出競争力を踏まえた食料安全保障への取組への深化が期待される。

【連絡先: 国立大学法人東京海洋大学 03-5463-0572】 (中核機関の連絡先)

＜研究概要図＞

委託研究課題名	国内外の諸制度を踏まえた国産水産物の供給体制の構築に関する研究
----------------	---------------------------------

【研究目的】 ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障に寄与するため、国内外の諸制度を踏まえ、中長期的な視点から国内水産業の成長産業化を見据えた国産水産物の適切な供給体制を構築する。

課題・研究項目	① 国内生産体制の強化を目指す漁業管理体制の基盤整備に関する分析
	(1) 効率かつ効果的な漁業管理（漁業資源管理、生産性評価）制度の構築に関する研究 新漁業管理制度の他国の諸制度とのハーモナイゼーションの可能性、水産業に適した生産性の考え方を整理し、定義や指標設定、経営分析、他産業との比較等について調査・分析する。 (2) 機械学習を活用した新たな資源管理技術の開発に資する研究 機械学習を用いた効率的な漁業体制の構築にも資する新たな資源管理技術の開発において必要な条件について調査・分析する。
	② 円滑な供給を目指す国内加工流通システムのイノベーションと実用化に関する分析
	(3) 水産加工技術イノベーションと実用化に関する研究 国内供給体制の安定化への寄与が期待される近年の水産加工技術の実用化における課題や普及の促進に必要な条件について調査・分析する。 (4) 水産物流通システムイノベーションに関する研究 スマート水産業の実現に向け、物流、商流、情報流の変化、トレーサビリティの普及等の視点から、今後の水産物流通システムの展望について調査・分析する。
	③ 今後の成長化が見込まれる主要品目の輸出競争力強化に向けた市場分析
	(5) 成長産業化を目指す主要品目の輸出入動向や貿易制度に関する分析 成長産業化を目指す主要品目であるマダイ等の輸出入動向や国内産地における生産・流通動向を明らかにすることにより、スムーズな輸出振興戦略のあり方について調査・分析する。 (6) 主要消費市場の貿易制度や消費動向に関する分析 海外の主要消費市場における貿易制度を整理し、消費者の水産物消費の特徴を明らかにすることにより、水産物の輸出振興戦略の展開について調査・分析する。 (7) 国産水産物の輸出振興戦略に関する分析 輸出振興に向け、日本発エコラベルのグローバルスタンダード化の可能性及び国産水産物の海外市場に向けた輸出振興戦略について調査・分析する。
	研究の目標 漁業管理体制の社会的基盤整備、加工流通技術革新の促進、輸出振興戦略の強化などに基づく、水産業の成長産業化を見据えた国内水産物の安定した供給体制を構築するための方策を提言する。
	政策研究との連携・意義、期待される波及効果 政策研究において実施される国産水産物の輸出のあり方に関する研究成果と、本研究で実施される成長産業化を見据えた国産水産物の需要動向を踏まえた安定供給のあり方に関する研究成果の連携がなされることにより、輸出競争力を踏まえた食料安全保障への取組への深化が期待される。
目標・効果	